

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年3月定例会

議席番号4番  
高桑 佳子議員

1. 伝統文化の継承と観光振興についての具体策はどうか

町長は2月臨時会において、「伝統文化の継承と観光振興について」、高齢化や後継者不足で伝統文化が絶える事がないよう取組む、町並みや史跡などを活かして観光振興に力を入れると表明された。今まで、その旗振りをしてこられた方々は、切実に次の世代への継承を憂いている。

これから、具体的にどのような手立てを考えて進めていくかを伺う。

(1) 出雲崎町伝統芸能後継者育成事業補助金の対象団体と交付状況を伺う。また、状況に応じて有効に補助金を活用してもらうために、今後要綱を見直す考えはないか。

(2) 伝統文化の継承、出雲崎の歴史や観光資源を語り継ぐ方たちについて、町が映像や音声での記録をとって整備し、次に伝えていくことを検討できないか。

(3) 妻入りの町並み等、観光振興において、もっと観光ガイドを有効に活用すべきと考える。観光ガイド研修の実施状況を伺う。

また、9年間、観光ガイドとして登録する人がなく、現在9名の観光ガイドの方たちの高齢化も進んでいる。積極的に観光ガイド養成に力を入れて層を広げ、交流人口の拡大に繋げる考えはないか。

(4) 町並みに観光客を誘導しても、ただ歩いてもらうだけでは町の素晴らしさや出雲崎の歴史のおもしろさは伝わらない。予約なしでも観光客等が町並みガイドを受けられるように、観光ガイド養成後に、無料での町並みガイドを検討できないか。

一般質問通告書（一問一答方式）

質 問 者

令和6年6月定例会

議席番号4番  
高桑 佳子議員

1. 地域おこし協力隊員の活動について

出雲崎町では、現在2名の地域おこし協力隊員が活動しており、新しく1名が着任の予定と聞いている。地域おこし協力隊の活動は定着してきており、当町の定員を含め、全国各地の報道を目にする事が多くなった。令和5年度、全国で7,200名の隊員が活動しており、総務省では令和8年度までに10,000名とする目標を掲げている。

国からの財政措置もあるこの制度を当町としても有効に活用して、地域活性化に繋がりたいと考え、町長の考えを伺う。

(1) 出雲崎町の地域おこし協力隊隊員の活動と今後の予定について伺う。

(2) 新潟県でも200名以上の隊員が活躍しており、新潟県地域おこし協力隊サポートネットワークが令和6年3月に設立されたと聞く。当町はイナカレッジにサポートを委託しているが、他町村との協力やサポート体制について伺う。

(3) 全国の事例から見ても、大変多様な活動が考えられる。当町としても観光、農業や教育等様々な分野での活動が期待される。町長が言われる自主財源の確保手段の一つとなるふるさと納税対策をはじめ、今後の活用についての考えを伺う。